

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	北海道ハイテクノロジー専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
工業専門課程	IT メディア学科	夜・通信	12 単位	10 単位	
	宇宙・ロボット学科 (募集停止)	夜・通信	9 単位	9 単位	
	AI スマートアグリ学科 (名称変更による募集停止)	夜・通信	12(270) 単位	9(240) 単位	
	スマート農業ビジネス学科 (名称変更による募集停止)	夜・通信	12(270) 単位	9(240) 単位	
	バイオテクノロジー学科	夜・通信	11 単位	10 単位	
	AI ビジネス学科	夜・通信	0 単位	13 単位	○
医療専門課程	救急救命士学科	夜・通信	17 単位	10 単位	
	柔道整復師学科 (募集停止)	夜・通信	13(330) 単位	9(240) 単位	
	鍼灸師学科 (名称変更による募集停止)	夜・通信	9(405) 時間	9(240) 単位	
	スポーツ鍼灸アナリスト学科	夜・通信	12 単位	10 単位	
(備考) 宇宙・ロボット学科・柔道整復師学科(募集停止)、AI スマートアグリ学科・スマート農業ビジネス学科・鍼灸師学科(名称変更による募集停止) 『() 内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している』					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校で公開しているホームページ上にて公開の他、シラバス上で実務経験のある教員について明記し、学生便覧を通じて学生に告知する。
URL : <https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名	AI ビジネス学科
(困難である理由)	令和8年度新規開設したが学生が集まらず入学者なし。今年度に募集停止する予定の為

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北海道ハイテクノロジー専門学校
設置者名	学校法人滋慶学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.jikeigakuen.ac.jp/information

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	令和7年5月 29日～ 令和10年度 の定時評議 委員会	地元(江戸川区)の名 士として学校と地域 の連携を図る。
非常勤	株式会社役員	令和7年5月 29日～ 令和10年度 の定時評議 委員会	地元(北海道)の名士 として学校と地域の 連携を図る。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北海道ハイテクノロジー専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 毎年自己点検・自己評価委員会を開催し、教育成果について教育評価を行い、自己点検した内容を元に学校関係者評価委員会において専門学校における教育の方向性と改善点について協議を行っている。また学校関係者評価委員会での教育指針ならびに改善提案を踏まえ、各分野の委員と年2回の教育課程編成委員会を設け、業界目線による開講科目、内容などの見直しを諮り、カリキュラムを立案している。 授業科目の作成においては各授業科目担当教員と上記内容を共有し、担当教員にシラバス作成を依頼。完成したシラバスを学科基幹教員が確認し適宜修正を実施。 また、作成されたカリキュラムは「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」に則り、学年目標、取得目標資格、就職分野を明確にして、科目ごとのシラバスを入学後のオリエンテーション及び開講時に学生へ公表している。	
授業計画書の公表方法	https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学修成果の評価については、各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価を行っている。試験実施の1週間前までに、その日時・方法を公示し、原則として実質50分間の試験（論文・レポート・実技・実習を含む）を行い、指導目標に対する学生の学修状況を勘案し、同じ基準に基づいて単位認定会議で単位評価評定を行う。 単位の評価評定は、学生の学修意欲の向上及び適切な修学指導に役立たせると共に、海外への留学や就職等、国際的な評価に対応することを目的として Grade Point Average（以下 GPA という）による評価を実施している。また、成績については各個人へのフィードバックと保護者に成績通知表の送付を行っている。																			
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価における評価点は、試験、平素の学習状況、出席状況の3要素により、評価する。成績は、100点法とし、60点以上を合格のDとする。 GPAを算出する計算式は以下の、客観的な指標の算出方法以下のとおりである。(GPの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとする。) <table><tr><td>実点数範囲</td><td>100～90</td><td>89～80</td><td>79～70</td><td>69～60</td><td>59点以下または不合格</td></tr><tr><td>成績評価</td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td></tr><tr><td>GP</td><td>4.0</td><td>3.0</td><td>2.0</td><td>1.0</td><td>0.0</td></tr></table> 【GPAを算出する計算式】 GPA= <u>(該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGP)の合計……①</u> 当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計……②		実点数範囲	100～90	89～80	79～70	69～60	59点以下または不合格	成績評価	A	B	C	D	E	GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
実点数範囲	100～90	89～80	79～70	69～60	59点以下または不合格														
成績評価	A	B	C	D	E														
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0														
客観的な指標の算出方法の公表方法	Web サイト上で公開 https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/																		
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。																			

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定は、卒業までに必要なすべての授業科目の単位について単位認定試験(追試験・再試験含む)による単位を修得した者を対象として、学校長、教務部長及び学科教員による卒業判定会議において学校長が認定を行う。 卒業が認定されない学生は留年、もしくは卒業延期となる。 卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知する。留年及び卒業延期者については、今後の本人の希望を優先した進路についてカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。同時に、卒業に必要な単位を取得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度卒業判定会議を実施にて卒業の認定を行う。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	Web サイト上で公開 https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/

様式第2号の4－②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4－①を用いること。

学校名	北海道ハイテクノロジー専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.jikeigakuen.ac.jp/information
収支計算書又は損益計算書	https://www.jikeigakuen.ac.jp/information
財産目録	https://www.jikeigakuen.ac.jp/information
事業報告書	https://www.jikeigakuen.ac.jp/information
監事による監査報告（書）	https://www.jikeigakuen.ac.jp/information

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	IT メディア学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	93 単位	183 単位	312 単位	41 単位	単位	単位
			536 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
280 人		188 人	8 人	5 人	33 人	38 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、実習連携先の企業などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。
成績評価の基準・方法
（概要）各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下 GPA という）による評価を実施している。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。
学修支援等
（概要）授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
94 人 (100%)	1 人 (1%)	84 人 (89%)	9 人 (10%)
（主な就職、業界等）IT 業界等			
（就職指導内容）個別面談により、個々の希望に合わせ、産学・高専連携センターと連携し、履歴書添削指導、面接指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等））NoMaps、CDP 北海道との産学連携、北海道警察、ネットトラブル防止教室などのイベント開催、ローカル・クリエイターズ・エキシビション 5 などのイベント参加など。			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
246 人	11 人	4.5%
(中途退学の主な理由) 目的意識低下による成績不良、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		専門課程	宇宙・ロボット学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間	96 単位	1 2 単位	8 4 単位				
			96 単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30 人		5 人	1 人	2 人	3 人	5 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、実習連携先の企業などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。
成績評価の基準・方法
（概要）各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下 GPA という）による評価を実施している。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。
学修支援等
（概要授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等）エンジニア業界等			
（就職指導内容）個別面談により、個々の希望に合わせ、産学・高専連携センターと連携し、履歴書添削指導、面接指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） - 産業用ロボットの教示等の作業に関する特別教育（第36条第31号）の課程修了 2024 スペースプロブコンテスト3位入賞 - 恵庭市産業祭陸上ドローン操作体験ブース出展			

・浦河町福祉施設ロボット・テクノロジー講習開催
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
14 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由) 目的意識低下による成績不良、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて校内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		専門課程	AI スマートアグリ学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間	97 単位	1 7 単位	5 2 単位	2 8 単位	単位	単位	
			97 単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30 人		13 人	2 人	3 人	13 人	16 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、実習連携先の企業などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。
成績評価の基準・方法
（概要）各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下 GPA という）による評価を実施している。
卒業・進級の認定基準
（概要）各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下 GPA という）による評価を実施している。
学修支援等
（概要）授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等）農業 農機具メーカー 農業公社等			
（就職指導内容）個別面談により、個々の希望に合わせ、産学・高専連携センターと連携し、履歴書添削指導、面接指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等））スマート農業共同体、キセキ北海道による連携授業実施、近郊の農場での農作物の空撮と画像解析結果の提供、岩見沢市スマート・アグリ			

シティコンソーシアムによる無人走行トラクター遠隔監視制御実証の見学など。
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		専門課程	スマート農業ビジネス学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間	97 単位	1 7 単位	5 2 単位	2 8 単位	単位	単位	
			97 単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30 人		6 人	1 人	3 人	13 人	16 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、実習連携先の企業などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。
成績評価の基準・方法
（概要）各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下 GPA という）による評価を実施している。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。
学修支援等
（概要）授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 農業 農機具メーカー			
（就職指導内容）個別面談により、個々の希望に合わせ、産学・高専連携センターと連携し、履歴書添削指導、面接指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等））スマート農業共同体、キセキ北海道による連携授業実施、近郊の農場での農作物の空撮と画像解析結果の提供、岩見沢市スマート・アグリシティ			

コンソーシアムによる無人走行トラクター遠隔監視制御実証の見学など。
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士			
工業		専門課程	バイオテクノロジー学科		○					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類							
			講義	演習	実習	実験	実技			
3 年	昼間	100 単位	3 7 単位	6 3 単位	単位	単位	単位			
			100 単位							
学生総定員数		学生実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
30 人		7 人	1 人		3 人		13 人		16 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、実習連携先の企業などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。
成績評価の基準・方法
（概要）各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下 GPA という）による評価を実施している。
卒業・進級の認定基準
（概要）（概要）卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。
学修支援等
（概要）授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） 農業 農機具メーカー、食品メーカー、化粧品メーカー			
（就職指導内容）個別面談により、個々の希望に合わせ、産学・高専連携センターと連携し、履歴書添削指導、面接指導を行っている。			

(主な学修成果(資格・検定等)) 毒物劇物取扱者、食品衛生責任者、バイオ技術者認定試験、日本化粧品検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門課程	救急救命士学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	103 単位	66 単位	9 単位	28 単位		
			103 単位				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
360 人		326 人	0 人	7 人	23 人	30 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、実習連携先の企業などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。
成績評価の基準・方法
（概要）各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下 GPA という）による評価を実施している。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。
学修支援等
（概要）授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
97 人 (100%)	0 人 (0%)	87 人 (90%)	10 人 (10%)
（主な就職、業界等） 消防、病院など			
（就職指導内容）個別面談により、個々の希望に合わせ、産学・高専連携センターと連携し、履歴書添削指導、面接指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 救急救命士国家試験 97 名受験、92 名合格、合格率 94.8%			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
313 人	11 人	3.5%
(中途退学の主な理由) 目的意識低下による成績不良、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて校内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	柔道整復師学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間	124 単位	79 単位	26 単位	19 単位			
			124 単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30 人		15 人	0 人	6 人	17 人	23 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、実習連携先の企業などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。
成績評価の基準・方法
（概要）各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下 GPA という）による評価を実施している。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。
学修支援等
（概要）授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18 人 (100%)	0 人 (0%)	16 人 (89%)	2 人 (11%)
（主な就職、業界等） 施術所勤務（接骨院、整骨院など）			
（就職指導内容）個別面談により、個々の希望に合わせ、産学・高専連携センターと連携し、履歴書添削指導、面接指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 柔道整復師国家試験：15 名受験、11 名合格、合格率 73.3%			

一般社団法人キネシオテーピング協会 認定トレーナー (CKTP) 公益財団法人日本パラスポーツ協会 初級パラスポーツ指導員
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37 人	4 人	10.8%
(中途退学の主な理由) 目的意識低下による成績不良、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	鍼灸師学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	121 単位	82 単位	16 単位	23 単位	単位	単位	
			121 単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30 人		15 人	1 人	6 人	34 人	40 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、実習連携先の企業などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。
成績評価の基準・方法
（概要）各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下 GPA という）による評価を実施している。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。
学修支援等
（概要）授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (91%)	1 人 (9%)
（主な就職、業界等） はり・きゅう治療院、鍼灸接骨院			
（就職指導内容）個別面談により、個々の希望に合わせ、産学・高専連携センターと連携し、履歴書添削指導、面接指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） はり師国家試験、きゅう師国家試験とも 10 名受験、 8 名合格、合格率 80%			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28 人	2 人	7.1%
(中途退学の主な理由) 目的意識低下による成績不良、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて校内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	スポーツ鍼灸アナリスト学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	136 単位	91 単位	29 単位	27 単位	単位	単位	
			147 単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
60 人		35 人	0 人	6 人	34 人		40 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）毎年開催している自己点検・自己評価委員会、学校関係者評価委員会、実習連携先の企業などを通して外部からの意見をカリキュラムに反映させ、学年ごとの到達目標を設定する。
成績評価の基準・方法
（概要）各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下 GPA という）による評価を実施している。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。
学修支援等
（概要）授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） はり・きゅう治療院、鍼灸接骨院			
（就職指導内容）個別面談により、個々の希望に合わせ、産学・高専連携センターと連携し、履歴書添削指導、面接指導を行っている。			

(主な学修成果（資格・検定等）)
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	2 人	10.5%
(中途退学の主な理由) 目的意識低下による成績不良、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。		

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		専門課程	AI ビジネス学科				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
4 年	昼間	124 単位	221 単位	367 単位	78 単位			
			666 単位					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）
成績評価の基準・方法
（概要）各授業科目に定められた当該学年の履修するすべての授業科目単位について、単位認定試験（追試験・再試験含む）を実施し評価（以下 GPA という）による評価を実施している。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業・進級の認定は、学校長、教務部長及び学科教員による卒業・進級判定会議において学校長が認定を行う。認定とならなかった者については、補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度判定会議を実施にて認定を行う。
学修支援等
（概要）授業、課題等による学修支援の他、スクールカウンセラーによるメンタル面を含めたサポート、キャリアセンターにおける就職支援、学生サービスセンターによる学生生活全般の支援を図っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (100%)	0 人 (%)	0 人 (%)	0 人 (%)
（主な就職、業界等） IT 業界			
（就職指導内容）個別面談により、個々の希望に合わせ、産学・高専連携センターと連携し、履歴書添削指導、面接指導を行う。			
（主な学修成果（資格・検定等））			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) キャリアサポートアンケートによる特性の分析、学科教員による個人面談、スクールカウンセラーによるカウンセリングなどを通じて学生一人ひとりに向き合い、学業の諸問題と学生生活全般を保護者、必要に応じて学内他部署スタッフ、寮長も交え、チームで対応しサポートする。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
IT メディア学科	100,000 円	600,000 円	500,000 円	
宇宙・ロボット学科	—	600,000 円	500,000 円	募集停止の為入学金記載せず
AI スマートアグリ学科	—	600,000 円	500,000 円	募集停止の為入学金記載せず
スマート農業ビジネス学科	—	600,000 円	500,000 円	
バイオテクノロジー学科	100,000 円	600,000 円	500,000 円	
AI ビジネス学科	100,000 円	600,000 円	500,000 円	2026 年募集停止予定
救急救命士学科	200,000 円	700,000 円	480,000 円	
柔道整復師学科	—	700,000 円	370,000 円	募集停止の為入学金記載せず
鍼灸師学科	—	700,000 円	370,000 円	募集停止の為入学金記載せず
スポーツ鍼灸アナリスト学科	200,000 円	700,000 円	370,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）		
学校法人滋慶学園北海道ハイテクノロジー専門学校が設置する専修学校における教育・運営活動等の状況について、自ら行う点検及び評価の項目並びにその実施体制等について検証し、問題点を把握の上目標を明確化し、必要な支援・改善を行うことにより、教育水準の向上と質の保証を図ることが重要である。また多くの外部評価を受けることにより学校評価の精度を高め委員会を組織して、客観性を持った評価による改善を目指したい。特に卒業生、保護者、地域住民、企業等との相互理解と連携を確立し、学校の説明責任を果たしていくよう努めることにより学校の組織力を高め地域に支えられる学校づくりにも貢献したい。 ①評価項目「1 教育理念・目的・育成人材像」「2 学校運営」「3 教育活動」「4 学修成果」「5 学生支援」「6 教育環境」「7 学生の募集と受け入れ」「8.財務」「9.法令等の遵守」「10.社会貢献・国際交流)」 ②評価委員の構成「卒業生代表」「在校生保護者」「高等学校」「業界代表」「地域代表」7名以内で構成する。 ③評価結果の活用方法「教育活動の改善点や課題を明確にし、具体的な改善策を検討・実施する」		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社 フロンティアサイエンス	2026.4月～2028.3月	卒業生代表
学生の保護者	2026.4月～2028.3月	保護者代表

帯広大谷高等学校	2026.4月～2028.3月	高等学校関係者代表
社会医療法人社団 カレスサッポロ カレス記念病院	2026.4月～2028.3月	業界関係者
株式会社レンタコム北海道	2026.4月～2028.3月	業界関係者
第三者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hht.ac.jp/prospectus/disclose-information/		
(備考)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.hht.ac.jp/
--